

《教育長メッセージ 第50号》

『今 教育に思うこと』

みなさんに自分の思いや考えをお伝えしていただき50回目となりました。私なりにひとつの節目として、今回は、このような題にさせていただきました。



それでは、私は、教育を語れるほど人として立派ではありませんが、職として日々あれこれと教育のことを考えていますので、その中から、子どもたちのための教育を中心に、今、私が思うこと、考えることを述べさせていただきますと思います。

教育は、子どもたちへの大人たちの責任です。

その時代を中心となって動かしている大人たちが、次に時代を生きる子どもたちの幸せを強く思い・願い行うものです。

まずは、みなさんは、自分の子どもに、目の前の子どもたちに、人としてどのように成長してほしいと願っているのでしょうか。

自分自身の経験から、年を重ねるごとに自分が親に似てきているなあと感じています。そのことから、子どもは、根本的には、その時代時代の社会環境の影響を受けながらも、自分が子どもの頃に見ていた大人の姿を手本に成長すると実感するのです。

そういう意味で、教育の根本は、家庭教育、家庭を補完する地域の教育力であると思うのです。

子どもたちとともに暮らす家族やまわりにいる地域の大人たちの姿そのものや、その大人たちが作る社会が子どもたちに映るのです。子どもたちは純粋で鋭い感性で、大人たちの姿を見て学んでいるのです。

教育の根本である家庭教育や地域の教育力は、今の時代を中心になって進めている大人たちが、責任を持って、人としてよりよい生き方やよりよい社会の在り方を子どもたちに伝えることだと、私は思うのです。

次に、学校教育についてです。

学校は、同年代の子どもたちが集団で生活して、自分の夢を叶えるために、大人として働いて社会に貢献するために必要な力を身につける場所です。そのために、学校では、教育のプロである教職員が、子どもたちの発達段階に応じた教育プログラムを作成し、それを計画的に実践します。

ご承知のように、日本では、ナショナルスタンダードとして、学校での

学習内容等が学習指導要領として示され、それに従って計画を立て、各学校で教育が進められています。そのうえで、各市町村、各学校の教育プランや目標を定めて、教育を展開しています。

私としては、海老名市の3年間の学校教育の計画を「えびなっ子しあわせプラン」として定め、今年が取組の2年目となります。各学校では、毎年、学校教育目標を定め目標の具現化のために教育活動を進めているところです。

しかしながら、家庭教育、地域の教育力と同じで、最近では、AI（人工知能）が話題になっていますが、学校教育も子どもにかかわる大人（教職員）が行うもので、教育は、人と人とのかかわりで行われるものです。どれだけ素晴らしいプランをたてても、学校教育では、私を含めた教職員、子どもにかかわる大人の有様が問われるのです。

東日本大震災に係る被災して移住した子どもたちへのいじめが話題となっています。残念なこと、また、心苦しいことは、教育委員会や学校、教職員の対応の至らなさです。多くの教職員が日々、真摯に子どもと向き合って努力をしていますが、目の前の子どもを支えられない事実、何とかしなければと、気を引き締めるのです。

「今、教育に思うこと」は、われわれ大人が子どもの今と将来を強く思って、大人としての責任を果たすということです。

次回は、「全国学力・学習状況調査」について、私の考えを述べてみたいと思います。